

# きんもくせい

令和5年 学校教育だより

March **3** 第352号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



積み重ねが大切(保健体育 柔道)

写真提供/富士見台中学校

「冬」

東中学校 二年

石川 伶

冬が苦手な人は多いが  
私は冬が大好きだ

風はヒヤツと心地よく  
済んだ青空地よく

これほど愛しい季節があるのに  
誰が他を望むのか？

あったかいココアで満たされ  
雄大な富士に満たされ

呆れるほどに素晴らしい！  
呆れるほどに素晴らしい！

冬が苦手な人は多いが  
わたしは冬が大好きだ

# を形や色にする喜びを～

指導者 鶴瀬小学校 教諭 深井 佐和子

## つくりだす喜びが個性をつくる

私は、子どもの頃から絵をかくことも、ものをつくることも得意ではありませんでした。しかし、図画工作科の時間が好きでした。たとえば、うまくできなくても、表現することが好きでした。それは、拙い作品でも、私の思いをくみとり、褒めてくれた先生や、喜んで飾ってくれた親がいたからです。絵をかく楽しさ、つくる面白さを味わう中で、自分が感じる好きな形やよいと思う色の組合せなどを見付け、私の個性は培われていきました。そしてそのたくさんの経験が、今の自分の価値観の礎になつているように思います。

よさや美しいと感じる心は、知識として教え込まれるものではなく、人それぞれがはじめからもっており、心地よい経験とともに豊かになつていくものではないでしょうか？あのとときの先生や親がしてくれたように、子どもたちの思いをくみとり、かく楽しさやつくる面白さを味わうことができる図画工作科の授業を、私は日頃から大事にしたいと考えています。

### つくりだす喜びを！

図画工作科の究極の目標は豊かな情操を養うことです。そこで、諸感覚が働くように活動を工夫しています。子どもたちが最も感覚を働かせるのは、夢中になつてるとき、主体的に活動しているとき、やりたいことが湧き出てくることです。つまり、つくる喜びを感じながら取り組むその時間や経験を積み重ねることが、豊かな情操につながっていくのだと私は思っています。

## 子どもの舞台

勝瀬中学校 2年  
和田 眞衣子

私はフェスタ勝中を通して演劇部の仲間と絆を深めることができました。今回上演した舞台では脚本執筆や舞台構成、宣伝美術など演技以外の大部分も部員が率先して担当したことで部員一人一人も確実に成長できたと思います。新たな挑戦への戸惑いはもちろん思い通りに練習の時間が取れず焦りを感じたこともありましたが、しかし全員が一つの目標に向けて努力することで自然と結束力が生まれ、より士気が上がったように感じました。

本番を経て改善すべき点は多くあると実感しましたが、演劇部がステップアップできた良い機会でした。



### わくわくする題材名を！

夢中になつて活動に取り組めるようにするために、子どもたちが「え!?」「早くやってみたい!!」「とうとうずずするよな題材名を考えるようにしています。

身近な材料をつかって弦楽器をつくる第三学年の題材では『とくとくとくとべつ楽器の音楽会におうちの人を招待しよう♪』と空想の音楽会設定や状況を題材名にし、興味・関心を引き出すようにしました。にじみ絵の技法あそびでは『夢

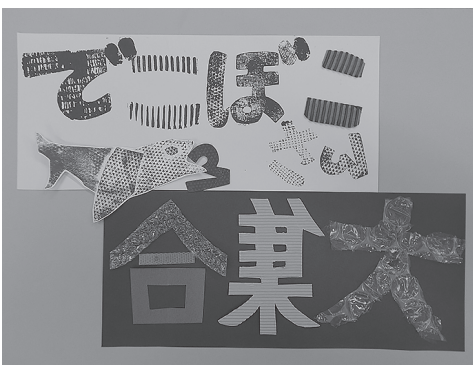
のかき氷シロップ…どんな味?!』と、子どもがイメージしやすい題材名を工夫しました。実態に応じて題材名を考えて

いくと、子どもの反応は大きく違います。

題材名の字も、実際に使う素材や表現技法を活用してつくと、わくわく感を高めたり、表現するときのヒントになったりもします。作品を掲示する際に、つくった題材名を一緒に添えると、見る人がより楽しめると思います。

### 魔法の世界に導き入れる

導入で大切にしていることは、子どもたちがもっている想像する力を引き出すことです。参考作品を示す場合は、その題



# 自分の思い ～自己を表現

## 特別支援教育

### 「確かな歩み」

鶴瀬小学校 教諭 唐澤めぐみ

鶴瀬小学校のなかよし学級は、二年ぶりに立ち上がった新しい学級です。期待と不安が入り混じったスタートから二年。とても温かなクラスです。

四月。「なかよし学級誕生プロジェクト」として、一年かけてカレンダーを作り、低学年と高学年でペアを組み、月のテーマに合

材の基本的なポイントや構造、仕組がわかる程度にとどめ、完成作品は提示しないようにしています。また、図や板書を通して押さえるところを示しておく、困ったら振り返ることができ、既習内容にも触れ、これまでの経験を生かせるようにしていくと、学びの積み重ねもできていきます。さらに、教師の笑顔、声かけで楽しい雰囲気を出せることも大事にしています。リラックスタイムと、子どもたちはやりたいことをどんどん見付けていきます。

わせた作品を作っていきます。十一月のテーマは、鶴小のシンボル「大イチョウ」。小さな折り紙をさらに折り、イチョウの葉の形に切る。同じ形をたくさん作るのには根気のある作業です。一枚一枚、個性的な葉を作る子。集中してチャレンジし続ける子。「ここを切るんだよ。」と教えてあげる高学年。「できた。」と

図画工作科の作品の中では、夢もかきません。魔法もかけられます。何でもできる素敵な世界に子どもたちを導き入れることができたらいいなと思っています。

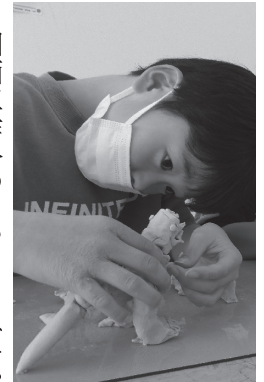
つくり つくりかえ つくり続ける…

夢中になって活動に取り組んでいても、うまくいかないことや思うように表現できないことも出てきます。失敗したと思っても発想を転換し、その形や色を生かし新たなことを生み出していくことができるのも

喜ぶ仲間「上手だね。」と声をかける…。活動を通してキラリと輝く素敵な姿がたくさん見られました。

三つのペアが作った三本のイチョウの木。どれもその子どもらしさが表れ生き生きしています。

学習の積み重ねで学級は、安心できる居場所となり、その中で、お互いを大切に、仲間との関わりを通して成長する子どもたち。また、来年度は、どんなハーモニーを奏でるのか楽しみます。



図画工作科のよいところ。「うまくいかない」を「うまく生かしながら…」子どもたちには、失敗を恐れずに、いろいろと試しながら、自分が心地よいと思える表現を追求させてあげたいと思っています。そこにこそ、個々の見方や感じ方が働くことになるからです。

### 最後の鑑賞?!もったいない!

鑑賞は他者の表し方の工夫を学ぶ絶好のチャンスです。鑑賞のポイントとしてねらいに沿った視点を示すと、子どもたちは細かいところまでよく見るようになります。中には、ひみつきの扉の開き方の面白さや、魔法の玉の色づかいの工夫を見付け、そこに自分のアイデアを加え、作品に生かす子も出てきます。

完成後の鑑賞だけでは自分の作品に生かせません。活動途中や次の授業の始めなどに作品を見る時間を設けると互いに感覚を刺激し合い、よりよい活動に発展していきます。

### 最後に…

子どもたちが大人になったとき、自信をもって、好きなものを「好き」、よいと感じたものを「よい」と言えるようになることを願っています。

だから、ついたり、かいたりする活動の中で、よさや面白さ、美しさとは何かを自身に問いかけながら自らの価値観をつくり出せるような図画工作科の授業を、これからも目指していきたいと思えます。

### 指導・講評

鶴瀬小学校長 武田 圭介

子どもの表現の中には言葉にならない潜在的なメッセージがたくさん込められています。これまでの経験、身に付けた知識、自分が捉えている世界観が無意識のうちに形や色に現われてくるのです。それらを素直に出せるようにすることで、その子自身の本来の表現が生まれてきます。だからこそ表現の本質なのだと思えます。深井教諭の実践のように内なる自分との対話を大切に、表現の本質に触れることができる授業が数多く取り組まれることを切に願います。

### 「教えること」の傲慢さを学ぶ

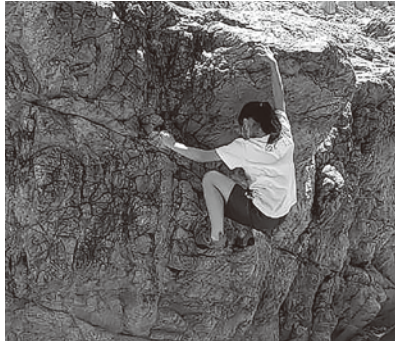
勝瀬小学校 保護者 本村 洸輔

娘とボルダリングを同時に始めてみてわかったことがある。それは、「教えること」の傲慢さである。

私たちは競技上、同レベルで大人である私が子どもであ

る彼女に教えられることはつもない。自ずと対等に相談しあう関係性になるが、時としてどちらかが先に課題をクリアし、もう片方が遅々として進まないことがある。すると「良かれと思って」アドバイスをしあうが、先日「あー、今の右手じゃなくって左手だよ。」と間違いを指摘されてムツとしてしまった。へ自分でやりたかったのに！と思ったのだ。

別の時には私が「こうするといいよ。」なんて得意になってアドバイスしたものの、身長差が四十cmもある私たちは同じ手法が取れないことが間々あり、この時の一言は彼女にとって余計なお世話になってしまったのであった。



このように根本的に異なる私と彼女は、別の人生を歩む、別の人格の人。私の娘である前に二人の個人だ。対等な関係性を通して改めて実感知を得た。

彼女は、これから先に色々な壁にぶつかるだろう。だが、変化を早く予想することの困難な未来を生きる彼女らに「何をすれば将来役に立つのか。」そんなことを教えることはできない。へ今を充実して楽しく生きることへ私が願うのはこればかりである。



### 平和について考える

水谷中学校

終戦からもうすぐ八十年を迎えようとしています。しかし、

今でも世界では誰も望まない争いが行われています。遠くの世界のことを自分のこととして考えるのは難しいことかもしれないけれど、だからこそ過去の歴史の中から「平和」について学び、考えることが大切と考え、今年度の修学旅行には奈良・京都に加え、広島を訪れる計画を進めています。

その事前の学習として市立図書館から百冊以上の戦争に関する資料を借り、さらにパソコンを使って調べ学習を行い、班ごとに発表を行いました。また、水中タイム室を昭和館の展示物と原爆の巨大な写真や戦争に関する写真を展示して小さな博物館にし、よりリアルな学習ができるように整えました。生徒はひとつひとつ

の資料を食い入るように見て、戦争の恐ろしさを更に実感し、平和への願いを強く持つことができたようです。



# はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

### 経験は財産なり

つるせ台小学校 保護者 矢野 純子

「経験は財産なり」二十代の頃、友人のお母さんから教えていただいた言葉です。

その頃からこの言葉は、私が新しい事を始める時、気分が落ち込んでいる時に気持ちを切り替えるおまじないの言葉になりました。

振り返れば、成功経験より失敗経験を思い出すことが多く胸が痛くなりますが、そこから多くのことを学び成長す

ることができたと感じています。そして今は、「同じ失敗をしなければいい。」失敗を恐れず挑戦しよう。」と、心がけるようになりました。

長男が二年生の頃、友人からPTA役員の誘いを受け、自分では無理ではないかと思いましたが、挑戦することになりました。現在五年目になります。また、子どもが入団しているサッカークラブの会長も経験させていた

いただきました。その経験で、他の保護者の方や先生方との様々な情報共有や活動を通して得た地域の方々との繋がりにより、多くの方に子どもたちが見守られていることを知りました。そして、私も何かお手伝いができることに、積極的に関わりたいと思うようにもなりました。

新しいことに挑戦して得られる経験や失敗から学ぶことは、将来に向けての大切な財産になります。

私は、子どもたちには無理かもしれないということでも、

失敗を恐れず挑戦できるように応援していきたいです。そのためにも、私自身がこれからも挑戦を続けて子どもと一緒に成長していきたいです。



### 一人一人の子どもが主語の学校

#### 針ヶ谷小学校

本校では「二人一人の子どもが主語の学校」子どもが自ら育ち、学ぶ学校を目指して取り組んでいます。子どもたち一人一人が自分に合った学びを選択しながら、学びをデザインできることを大切にしています。

ICTを文具化することで、意欲的に、また自分の得意とする方法で学習に向かうことができます。また、

瞬時に友達との意見交流や自分の考えを表現することもできます。学ぶワクワク感と安心感、そして学校だからできる学びの実感を大切にしています。

昨年十月の姉妹都市であるシヤバツ市代表団訪問時には、各学年が歓迎の気持ちと、「日本のよさ」を伝えるために、様々な催しを行いました。まさに子どもたち一人一人が主語になり、学び合いながら、自らデザイン

した取組となり、針ヶ谷小学校らしさをお伝えすることができました。



### 教育課題特集

# 生きる力を

### 思考力・判断力・表現力

ICT支援員リーダー 吉本 晴恵

生きる力を定義することはとても難しいのですが、私たち支援員を含め学びに関わる方々が、その一つとして大切にしているのが【思考力・判断力・表現力】の三つの力です。

例えば災害をもたらすような大きな台風が来たと考えてみてください。

自分たちが置かれた状況を正確に把握するための思考力（雨が降り続いていて川の水位が短時間で上がっているぞ）、どう行動すべきか適切に判断する判断力（ここは土地が低いかから今の状態だと洪水が起きるぞ）、自分の考えを他者に納得させ行動につなげる表現力（○○だから今すぐ逃げないと危ない。○○へ逃げよう!）と伝える）の三つの力です。

この力をはぐくむため、授業の中でどのようにICTを活用すれば、自分で問題点を探したり、意見を発表し合ったり、学んだことを身近なものやことに活かしたりできる



のか。先生の悩みを受け止め、支援員も一緒に考え工夫しながら日々の授業を創り上げていきます。

一番大事なポイントは、子ども自身に実践・体感させること。つい大人は先回りして【考えて・判断して・指示して】しまいがちですが、時には子どもを考えを尊重し、行動を見守り、失敗したとしても一緒にリカバーしていくことを心掛けています。これからは先生方と共に、子どもたちの成長をしっかり見守っていきたいと思えます。



一筆に気持ちをこめて

1月に清書会を行いました。静まり返った体育館で、子どもたちは一筆一筆でいねいに書いていました。

関 沢 小

本年度も、コロナウイルス感染症防止を講じながら、子どもたちは学校生活を送ってまいりました。郊外学習や宿泊学習、地域の方などをお招きした講演会等も実施され、以前の日常を取り戻しつつあります。  
学校では、今、一年間のまとめを行っています。自分の成長を実感しながら、課題を見つけ、子どもたちは進級していきます。これからも、子どもたちにとって学校生活の「コマ」が、大人になっても忘れられない思い出になるように教職員も頑張っていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願いたします。



勝 瀬 中

フェスタ勝中

吹奏楽部や演劇部の発表などに、多くの人が魅了されました。



水 谷 東 小



チーム水谷東小!開校 50周年!

開校50周年の記念事業に、ふわっぴーも応援に来てくれました。東っ子まつりでは、たてわり班でなぞときにチャレンジしました。



西 中

We love 西中

生徒会本部役員による『Stop いじめ!!』の取り組みとして、全校生徒から標語を募集し、美術部と協同で階段標語アートを作成しました。

|| 市教育相談室より ||

教育相談室のご案内

お子さんの教育上の心配事は、どんなことでもお気軽にご相談ください。  
早めの相談が解決の道に繋がります。

「相談内容」

- 一般教育相談
- ・ 学校に行きたがらない。
- ・ 乱暴や非行が目立つ。
- ・ 落ち着きがない…等。
- \* 公認心理師・臨床心理士による心理相談も受けられます。

○ 就学相談

- ・ 子どもの就学先に不安がある。
- ・ 発達に関して気になる…等。

○ 特別支援教育相談

- ・ 特別支援教育の情報が知りたい
- ・ 発達障がいと診断されたが…等。
- \* 特別支援教育士も対応出来ます。

○ 言語相談

- ・ 言葉がはっきりとしない。
- ・ 発達段階に比べ、言葉が遅れている。
- ・ 耳が聴こえにくい…等。
- \* 言語聴覚士が対応します。

\* 必要により通級指導や言語訓練に繋がります。

「相談方法」

- 電話相談
- ・ 匿名での相談も可能です。



針ヶ谷小

毎年恒例、書初め大会

しんと静まり返った体育館。2学年合同で取り組むことで、より一層気持ちも引き締まりました。



東中

南畑クリーン作戦!

本校では、各学期に一度、学校周辺の環境美化活動を有志の生徒で行い、美しい地域づくりに向けて取り組んでいます。



諏訪小

消防士さんってすごい!

学校近くの東消防署へ見学に行ってきました。訓練を見せていただいたり、救急車に乗せていただいたりと、貴重な体験をすることができて子どもたちは大興奮でした。



みずほ台小

伝統芸能に触れる ～能楽体験プログラム～

囃子方のみなさんに、楽器の構え方や音の出し方を教えてもらいました。美しい音色が体育館に響きました。



勝瀬小

楽しかった「勝瀬っ子祭り」!

3年ぶりに、勝瀬っ子祭りを開催しました。異学年と協力しながら、楽しくお店巡りをすることができました。

○面接相談

・電話で予約の上、実施します。

○訪問・出張相談

・ご希望により、公民館等の公共施設や、ご自宅での相談も可能です  
\*相談は無料です。

「適応指導教室あすなろ」

・登校できない状況にあるお子さんに対し、自立に向けた支援を行う教室です。  
・月々金の九時～十四時三十分が開室しています。

・軽スポーツ、コミュニケーションゲーム、体験活動、教育相談、個別学習等を行います。  
\*見学や体験通室も可能です。

\*適応指導教室「あすなろ」は、令和5年4月1日から、教育支援センター「あすなろ」に名称を変更します。

「本室HPの案内」

・市のHPの中にあります。利用方法や教育相談Q&Aが掲載されています。是非、ご覧ください。

市教育相談室

- ・開室日：月々金。(祝・祭日を除く)
- ・受付時間：9:00～17:00
- ・所在地：上南畑1317
- ・TEL 049-1253-15313
- ・FAX 049-1253-15101

# 教育委員会だより

## 卒業おめでとございませす

春の暖かな日差しの中、市内小・中・特別支援学校の卒業生の皆さんが新たな門出を迎えます。保護者のみなさまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことでしょう。

卒業生のみなさんは、通い慣れた学校や一緒に過ごした仲間たちとの別れに寂しさを感じながらも、これからの生活に期待を膨らませているのではないのでしょうか。新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、広い視野をもった心豊かな人に成長することを願っています。

在校生のみなさん、4月から1学年ずつ進級します。この1年間を振り返り、新しい目標に向かって、たくましく元気に学校生活を送りましょう。

### 令和5年度富士見市立小・特別支援学校入学式

期日:4月10日(月) 入学見込み人数は1月20日現在

	開式時刻	入学見込人数
鶴瀬小学校	11:10	90人
水谷小学校	11:00	142人
南畑小学校	10:45	73人
関沢小学校	11:00	82人
勝瀬小学校	10:50	98人
水谷東小学校	11:00	25人
諏訪小学校	10:50	115人
みずほ台小学校	11:00	78人
針ヶ谷小学校	10:45	55人
ふじみ野小学校	10:50	78人
つるせ台小学校	10:40	107人
富士見台中学校	10:00	212人
本郷中学校	10:00	123人
東中学校	9:40	95人
西中学校	9:20	131人
勝瀬中学校	10:05	227人
水谷中学校	9:15	104人
富士見特別支援学校	15:00	22人



### 全力で取り組んだ先にあるもの...

西中学校 教諭 谷本 拓海



笑顔あふれる元気な二年二組の生徒たち。この一年クラスに伝え続けたことは「何事にも全力で取り組んで欲しい。」ということです。

戦を練り、考えたことを粘り強く伝え続けた結果、次第にクラス全員が団結していききました。当日、全員が三分間全力で跳び続け、その姿に感動しました。

胸がいっぱいになりました。

生徒たちと全力で歩んだ一年。リーダーとどうすればクラスがよくなるか本気で悩み、一緒に考えたこと。全力で頑張った欲しいから、私の想いを心の底から本気で伝えたこと。自分たちで考え、たくさん壁を乗り越えたとき、本当の楽しさや達成感を味わえ、初めて成長できたと言えると思改めて感じた年でした。最高学年になっても全力で取り組むことを忘れず、後輩を引っ張っていただける君たちを楽しみにしています。

### 編集日記

「春夏秋冬、好きな季節はいつですか。」

私は迷わず夏と答えます。以前若かりし頃、常夏の国で約二年間生活をしたことがあります。日本と違ってからっとした夏ですから、時にスコール(強い雨)が降ってもぬれた服はすぐに乾きます。洗濯物もすぐに乾きます。冷たい飲み物が美味しいです。これは照り付ける太陽のお陰です。時々、日本のことを思い出して寂しい気持ちになった時も太陽は明るく私を照らし、元気をくれました。

「嫌いな季節はいつですか。」

私は迷わず春と答えます。教員になって初めて六年生を担当したあの時を思い出します。三月の卒業式で、教え子たちが立派に学校を巣立っていきました。何より嬉しいはずなのに、私の心はぼつかりと穴が開き、寂しい気持ちでいっぱいでした。「こんなに寂しい思いをするなんてもう二度と卒業生の担任なんてするもんか。」心に誓った春でした。

この誓いとはうらはらにその後は何度も卒業生を担当しました。時の流れが私の心を強くしてくれました。

春夏秋冬、好き?嫌い?

(齊藤七実)